

▼この夏、全日中会館に保存されている昭和二十五年と二十六年の研究協議会記録を目にする機会があり、資料を熟読しました。昭和二十五年の第一回

研究協議会(当時は、「全日本中学校長会岐阜大会」と称していた)は、本会が結成されたその年に岐阜県岐阜市公会堂(当時)において九月二十日から二十二日まで開催されました。

▼保存されている資料の用紙は、茶色に変色し、静かにページをめくらないと破れてしまいそうな状態です。資料は鉄筆で一字一字、ロウ原紙に手書きされたものを謄写版印刷したものです。▼終戦から五年目、新制中学校が発足して三年目の当時、一、四七〇人の校長先生方が岐阜市に参集されていることにまず、驚かされました。

また、この第一回研究協議会が岐阜県で開催されることが決定されたの

は、なんと前年の十一月。京都で開催された全日本中学校長会結成に向けた協議会の場で決定されました。開催決定から約一〇か月で準備し、開催したという現在では、考えられないスケジュールでした。

▼九月二十一日午前には、講演会が開催されました。講師は、来賓として招かれていた連合国軍最高司令官総指令部(GHQ)の教育文化を担当する民間情報教育局(CIE)東海北陸民事務マグダガード教育課長でした。

当時の日本は、サンフランシスコ平和条約が発効(昭和二十七年四月)される前であり、GHQの占領下であったことがこのことから分かります。

▼また、この研究協議会では、中学校教員定数を一学級二人とすること、事務職員や養護教諭、生徒指導主事の設置、法制化などを決議しています。

時代は大きく変化しましたが、「子供たちのためにどうするのか」という

熱い気持ちは、現在でも通用することだと思います。

▼九月二十日午後には、文部省(当時)からは、内藤庶務課長(当時)から、重要政策及び本年度予算について説明がありました。一番の課題は校舎の建築でした。

説明の後の質疑応答では、大阪府から「雨天体操場」「講堂」の建築を認めてほしいとの意見が出されています。課長からは、文部省として善処するとの回答が示されました。

国としては、まずは授業を行うための教室の整備が最も優先される課題だったのです。現在、避難所としての体育館に空調設備の設置が推進、検討されているなどと聞いたら腰を抜かすに違いありません。

▼三日目は、参観・見学があり、全体で一〇のコースが設定されていました。特筆すべきは、大会要項に記載された高山市見学の宿泊料は「四〇〇圓―四

五〇圓 主食持参(当時のまま)の記載が見られます。当時、旅館に宿泊する際には宿泊費とともに、主食つまり米を持参せよとのことでした。

▼翌年、昭和二十六年九月には、北海道札幌市「札幌市民会館」(当時)で「第二回全日本中学校長大会」が開催されました。全国から二、〇一七人の参加者がありました。参加費は一人三〇〇円、宿泊料は一泊二食付七〇〇円、一、〇〇〇円でした。ちなみに、当時の大学卒業の国家公務員の初任給が五、五〇〇円だったそうです。

▼全国各地から北海道へ移動するのも大変な苦勞がありました。残された当時の記録によると、例えば、東京から札幌に向かう行程は、上野駅発九月十五日午後六時三五分、青森駅着十六日午前八時四七分、青函連絡船青森発十六日午前一時一五分、函館港着午後三時四五分、函館駅発午後七時三〇分、札幌駅には十七日午前五時三〇分

着という長途の旅でした。

東京上野から北海道札幌までは、乗り換え時間を含め約三五時間、つまり、一日半もかけてやっとたどり着いたというのが実感だったと思います。

現在ですと、羽田から新千歳までは九〇分のフライト、札幌駅までJR快速エアポートで三九分、隔世の感があります。ただし、これは、東京からの参加を前提に計算していますので、九州方面から参加するためには、それ以上の時間と費用がかかっていました。▼北海道大会は九月十七日(月)から十九日(水)まで開催されました。

東京からの往復の旅程を考えると、当時、研究大会に参加するためには六日間、学校を開けなければならなかったのです。

▼ここで、当時の研究協議の内容を見てみましょう。参加各都道府県から最も多く提出された議案のトップは「六・三制度」にかかわるものでした。

「六・三制度」は昭和二十二年四月にそれぞれの修業年限を小学校六年、中学校・高等学校三年、大学四年とし、始まりました。

▼しかし、新制中学校は、独立校舎が建前であったにもかかわらず、母体となる旧制校がなく、教員も約半数は旧国民学校からの転任者でした。したがって、教員定数を満たす人員を集められず、必要な免許状を持たないで教壇に立っていた者も多数いたと言われていました。校舎建築など、市町村はもとより、都道府県にとっても学校の設置は重すぎる財政負担となっていました。

▼今回は全国研究協議会の第一回岐阜大会と第二回北海道大会の記録を基に紹介いたしました。

今月二十日には七三回全日本中学校長会研究協議会北海道(札幌)大会がオンラインで開催されます。大成功を祈念しております。

(事務局長 富士道正尋)